

Red Hat Enterprise Linux の最適なバージョンを選ぶ方法

Red Hat® Enterprise Linux® のオペレーティングシステムをアップグレードするにあたり、ご自分の組織にはどのバージョンが最適なのかとお考えでしょうか。ご利用のサブスクリプションでは、利用可能なバージョンの中からお客様のニーズに最も適したものを自由に選択することができます。予測可能なリリース頻度が一新され、利用できるサポート対象バージョンが増えたことに伴い、Red Hat Enterprise Linux 8 と Red Hat Enterprise Linux 9 の主な違いを理解することはお客様に最適なバージョンを選ぶのに役立ちます。すぐ後のバージョンを選択するのが当然と思われるかもしれませんが、実際には、より新しいバージョンを選択するほうが理にかなっている場合もあります。

1 ライフサイクルの最大化

新しいホストに移行するのではなくシステムをアップグレードするという判断は、通常、基盤となるコンポーネントをアップグレードしてパフォーマンスの向上を目指す場合や、重要なワークロードのサポートを拡張する場合など、既存アプリケーションの可用性およびライフサイクル管理の必要性から生じます。いずれにせよ、メンテナンスフェーズから、または延長ライフフェーズからでも、現在フルサポートフェーズにあるオペレーティングシステム (OS) に移行すると、より多くのアップデートが長期間にわたって利用できるようになります。

たとえば、Red Hat Enterprise Linux 7 Server は現在メンテナンスフェーズ 2 にあり、Red Hat Enterprise Linux 8 は 2024 年 5 月までフルサポートが継続され、Red Hat Enterprise Linux 9 は 2027 年 5 月までフルサポートが提供されます。[Red Hat Enterprise Linux ライフサイクルのページ](#)に、簡単に比較できる使いやすいマップと表が記載されています。

フルサポートでは、修正やアップデートに加えて、新機能、新しいストリーム、新しいハードウェアが追加されています。Red Hat Enterprise Linux 9 に移行することで、アクティブな OS 開発期間が長くなるとともに、サポートされるライフサイクルが全体的に長くなります。

Red Hat Enterprise Linux の新規メジャーリリースの時点では、新しいバージョンと以前のバージョンの間の技術的なギャップはかなり小さいものの、時間が経つにつれて、機能を以前のバージョンにバックポートすることが困難になります。そのため、フルサポートフェーズであっても、時間の経過とともに乖離がさらに大きくなります。

アプリケーションとハードウェアの最新の組み合わせを最新バージョンの OS 上で使用することで、利用できるサポートライフサイクルが最大化されます。

2 アプリケーションのサポート性

アップグレードを選択する場合、エンタープライズ向けの独立系ソフトウェアベンダー (ISV) が提供する商用アプリケーションが関係していることがよくあります。アプリケーションは同じバージョンのままオペレーティングシステムをアップグレードするのは、多くの場合、エンタープライズ・アプリケーションの安定性とサポート性を高めるためです。これらの ISV が Red Hat Enterprise Linux のどのバージョンをサポートしているかを把握すれば、選択の指針になります。

Red Hat の広範なパートナーネットワークは、Red Hat Enterprise Linux のさまざまなバージョンに対してソフトウェア・コンポーネントを検証し、認定しています。また、私たちはパートナー全体として、それぞれが長期的に求めるものに適合する、パッケージやライブラリのアップデート版を提供するよう努めています。これはつまり、多くの場合、ISV 認定が Red Hat Enterprise Linux の特定のメジャーバージョンに関連付けられることを意味します。

ISV パートナーが、アップデート版を構築すべき新しいソフトウェア・コンポーネントや、利用できる新しいハードウェア機能を探している場合、Red Hat Enterprise Linux 9 が適切な選択となる可能性があります。

フルサポートされているバージョン間の経時的な変化を考慮すると、組織が現在使用している商用アプリケーションは、Red Hat Enterprise Linux の新規リリースの一般提供時点ではまだテスト中であるか、開発中である可能性があります。

3 長期的な安定性

社内で開発したアプリケーションの場合、選択したコンポーネントのプラットフォーム再構築に多額の投資が必要になり、目立ったメリットはほとんど、もしくはまったくないでしょう。一般的な開発ツールやコンポーネントの特定のバージョンを中心として構築された既存アプリケーションは、アップグレード中、さらには移行中に中断される場合があります。

Red Hat Enterprise Linux 8 および 9 ではアプリケーション・ストリームが利用できるため、複数のバージョンの共通コンポーネントが提供されます。つまり、新しい運用環境や管理ツールを利用しながら、既存のアプリケーションに安定した環境を提供することが容易になります。

Red Hat Enterprise Linux 8 は、古いバージョンのコンポーネントだけでなく、ライフサイクル中にリリースされる新しいコンポーネントも提供するため、コンポーネントのバージョン間をスムーズに移行することができます。

4 イノベーションの追求

チームは多くの場合、最新テクノロジーの選択肢を活用するために、既存アプリケーションのアップデートや再設計を検討しています。オペレーティングシステムをアップグレードすることで、より新しい運用ツール、開発ツール、コンポーネント一式にアクセスできるようにもなります。最新のテクノロジーとツールにアクセスできるため、チームは新規プロジェクトの提供を迅速化し、リファクタリングや新しいパターンに容易に対処できるようになります。

アプリケーション・ストリームを含む複数バージョンのコンポーネントとより新しいバージョンのサポート対象オペレーティングシステムを使用することで、現在の環境はある程度の互換性を維持しながら大きく前進することができます。

Red Hat Enterprise Linux 9 は、新しいバージョンのリリースに伴い継続的に新しいテクノロジーをサポートし、ユーザーに幅広い選択肢を提供します。

5 ハードウェア廃止の延長

アップグレードの目標がオペレーティングシステムより上位層のことであっても、既存のインフラストラクチャに依存することがあります。多くの場合、ソフトウェアの機能を更新しながらデータセンターへの投資を最大限に活用するという方法が理にかなっています。

ISV エコシステムと同様、ハードウェアパートナーのネットワークにより、当社は幅広いサポート対象デバイスを備えています。メジャーリリース間で、またはこれらのパートナーとの連携により、特定のデバイスがサポートされなくなる場合があります。Red Hat Enterprise Linux の適切なバージョンを選択すると、前世代のハードウェアのサポートを維持しながら、アップデートしたソフトウェア・プラットフォームを得ることができます。

通常、メジャーリリースは古いハードウェアには非推奨とされます。メーカーによるサポートが終了した古いハードウェアは、Red Hat Enterprise Linux 9 では利用できない場合があります。

6 カーネル機能

再構築ではなくアップグレードを選択する場合、その理由は Red Hat Enterprise Linux 内で提供されるコア機能である場合があります。パッケージの最新のアップデートや機能にアクセスするには、新しいバージョンの OS への移行が必要になることがあります。機能やセキュリティ修正のバックポートは頻繁に行われますが、メジャーバージョンの場合、バックポートでは提供できない変更を含むパッケージの新しいベースラインが示されることがよくあります。

たとえば、Red Hat Enterprise Linux 7 カーネルはアップストリーム 3.10 バージョンに基づいており、Red Hat Enterprise Linux 8 はアップストリーム 4.18、Red Hat Enterprise Linux 9 はアップストリーム 5.14 に基づいています。新しいバージョンの機能とセキュリティアップデートは以前のバージョンにバックポートされる場合がありますが、大規模な構造変更は Red Hat Enterprise Linux の新しいメジャーバージョンのリリースを待つこととなります。

バックポートだけでは限界があります。最終的にはストリームでは処理できない新しい機能が必要になります。



Red Hat について

Red Hat は、受賞歴のあるサポート、トレーニング、コンサルティングサービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

アジア太平洋

+65 6490 4200
apac@redhat.com

オーストラリア

1800 733 428

インド

+91 22 3987 8888

インドネシア

001 803 440 224

日本

03 4590 7472

韓国

080 708 0880

マレーシア

1800 812 678

ニュージーランド

0800 450 503

シンガポール

800 448 1430

中国

800 810 2100

香港

800 901 222

台湾

0800 666 052

f fb.com/RedHatJapan
 twitter.com/RedHatJapan
 in linkedin.com/company/red-hat